

二年前に広島でキルト展を開いたメンバーが中心になって、「広島エイズ・ダイアル（HAD）」というボランティア団体を作りました。名前どおり、まずエイズ電話相談を始めました。ビデオや映画の上映会、市民向けの講演会、教育活動もしています。医師、看護婦、教師もいますが、普通の家庭の主婦や広大生も参加しています。ボランティアの中に、感染者も加わってきました。ある患者さんはHADの集いに夫婦で参加して、体験談を語る予定でした。残念ながらその二週間

前に亡くなり、彼の手記が代読されました。迫ってくる死への恐怖、残される家族への愛情、そしてエイズの広がりを防ぎたいという彼なりの使命感が書かれていたのです。エイズは新しくて手ごわい病気ですが、人間でもっと素晴らしいのです。あなたには何ができるか、ちよつと考えてみて下さい。

広島エイズ・ダイアル（HAD）  
代表 河野美代子  
電話番号：〇八二―二四二―一五〇五  
〇八二―二九四―四五九一

## 運転の知恵

―あなたは交通事故をどう防ぐか―

西条警察署交通課長 藤川 純 夫

## 若者の交通事故は

若者の自動車運転中の死亡事故が多発している。

平成四年中の広島県の交通事故死者数は、二五六人で、その内、若者（一六〜二四歳）の死者数は八八人、前年と比較して一二人、一五・八パーセント増加しており、全死者数

の三四・四パーセントと大きな割合を占めている。

広大生の交通事故を見ると、広島、西条キャンパス周辺や広島・東広島間の幹線道路での事故が多発し、昨年五名の学生が交通事故で亡くなっている。

## 若者の運転傾向は

若者の運転傾向について、スピード指向と自信過剰を指摘したい。

死亡事故の原因を見るとスピードの出過ぎは各年齢層にあるが、若者では全体の六四・八パーセントを占めている。

いわゆる暴走族っぽい事故ばかりでなく、まじめな若者が起こすケースが結構多い。

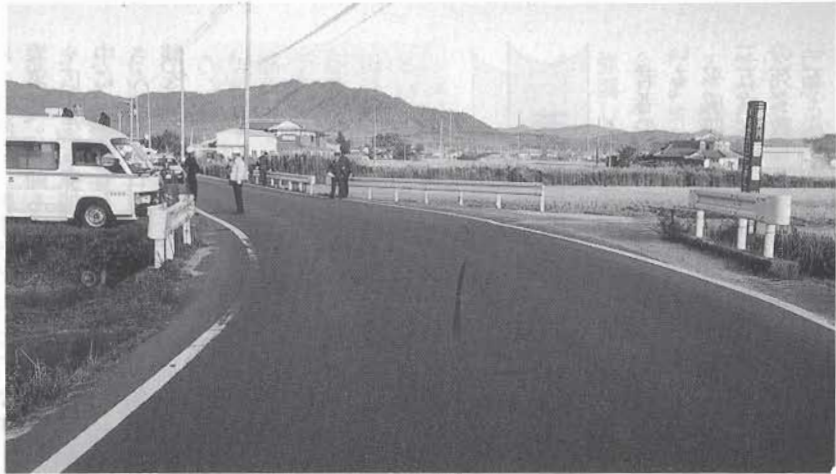
限界への挑戦というチャレンジ精神が旺盛な反面、運転技術や車両の性能を過信して自分本位の運転になりがちなのではなからうか。スピードを出すことがうまい運転ととらえることは危険である。

## 若者の交通事故を防ぐには

カーブ走行は  
見える範囲で止まれる速度

若者の死亡事故をひと言で表現すれば、「夜間、スピードを出し過ぎ、カーブを曲がり切れず……」というのが典型的なパターンである。

カーブ事故の態様は、  
○ 高速でカーブに突入して曲がり切れず慌てて急ハンドルを切ってコントロールを失う場合



死亡事故現場

自動二輪車の若者は深夜、左カーブを曲がり切れず正面のガードレールに衝突

- カーブのため見通しが悪く危険の発見が遅れる場合
  - カーブで車が振られて車線をはみ出したりする場合
- があげられる。

事故の大半は、カーブの大きさに応じたスピードコントロールができなかったことが原因。カーブ手前でのスピードダウンを徹底することが、カーブ事故防止の最大のポイントとなる。

カーブでは、注意力を高めて運転するとともに、見える範囲で止まれるスピードで走ることが肝心である。

深夜にカーブでライトが届かない、不慣れな道を高速度で走ること自体が無謀である。

### ヘルメットの紐は命綱

自動二輪車の運転者が頭部打撲等で死亡した現場にあったヘルメットはほとんど無キズであった。このことは、ヘルメットの顎紐を十分締めていなかったのか、または全く顎紐をかけていなかったため、ヘルメットは転倒時に外れたと考えられる。

衝突転倒時に、ヘルメットが外れてしまうバイクの事故を見かける。バイクの運転者は、このことを考えてヘルメットの紐をきちっと締めなければならぬ。

西条キャンパス内で、ヘルメットを着用しないで移動するバイクを見掛けるがこれは論外だ。

### 「危険の予測」が最大のテクニク

運転には認知、判断、操作の三つが重要である。若者は、特に「操作」面ばかり磨こうとする。車を運転する腕を磨くことが上手な運転なんだと思いき込み勝ちである。

操作以前に認知、判断が非常に大事で「危険の予測」が一番の安全運転のテクニクである。

若者は運転経験が少ないから、それだけヒヤリ、ハツとしたりする経験も少なく危険の予測が不十分である。

道路上で危険を体験し怪我をしてから車や人間の能力に限界があることを知ったのでは遅い。回避可能な事故は絶対避けるといふ「防衛運転マインド」を持つことが大切である。

### 若者も思いやり運転を

自由を満喫できる大学生活も、一旦ハンドルを握れば、若者だから、学生だからという甘えは許されない。

自分を愛するとともに他人を愛する。自分の命を大切にするとともに他人の命を大切に。そのような人間味、思いやりのある運転を心掛けてもらいたい。